



▲雪の重みでつぶれた飯野篤己さん(畠山)のハウス。中の作物は全滅した(飯野さんのインタビュー記事は4ページ)



▲一面雪に覆われた市役所本庁舎南側。普段は多くの車が行き交う国道17号に車は無く、雪の重みでバス待合所が壊れていた(平成26年2月15日撮影)

農業王国 ぶかや 再生へ

平成26年2月の大雪から1年

平成26年2月、『農業王国』を襲った大雪

昨年の2月14日から15日にかけて関東地方に降り続いた雪は、記録的な積雪となり、市内の道路交通網は寸断され、鉄道・路線バスなど全ての交通機関が運休、住宅や施設にも被害が発生するなど、市民生活に大きな影響をもたらす大災害となりました。

そして、降雪後に降った雨で湿って重くなった雪により、農業用ハウス(以下、ハウス)2644棟や畜舎68棟が倒壊するなどの被害が発生し、農業用生産施設と主な農畜産物の被害総額は80億円を超えました。深谷市は多くの農畜産物が全国有数の生産量を誇る『農業王国』です。それを支える市内の多くの農業者は、生活の基盤を揺るがす深刻な事態に直面しました。今月の特集では、市内で農業を営む4人のかたにお話を伺いました。被災した時のことや、1年経った今の心境など、被災した農業者の『声』をお伝えします。

インタビュー① 井田秀代さん(針ヶ谷)

絶対、再建する！

生き残った豚やこれから生まれる子豚のために

「分娩舎がつぶれた！」

我が家は養豚業を営んでいます。昨年2月15日の早朝、「分娩舎がつぶれた！」という父親の切迫した声を覚えました。必死に雪をかき分け、たどり着いた分娩舎からは、子豚のか細い鳴き声だけが響いていました。

養豚にとって、繁殖の場所である分娩舎は肝心要の施設。その屋根が崩落し、生まれたばかりの子豚が凍死するなど、壊滅的な被害を受けました。



悔しかったけれど、無事だった豚が、寒い中、身を寄せ合って必死に生きようとしているのを見て、無事だった豚やこれから生まれてくる子豚のために「絶対、再建する！」と心に決めました。

しかし、今まで全自動だった作業が手作業になったり、空調設備

周りの支えが再建の力に

それでも私が負けずに頑張ったことしたのは、必要な施設や暖房機器などを貸してくれた同業者のかたや、休日返上で豚舎を建設してくれた業者さんなど、周りの大きな支えがあったからです。

今年2月には新しい分娩舎が完成しましたが、生産が元の状態に戻るには、まだ時間が必要です。これからは、周りの支えに感謝して、家族と共に頑張ります。

▶雪でつぶれた豚の分娩舎



▲つぶれた分娩舎内部。屋根がつぶれ、空調は止まり、豚たちは寒さに震えていた

▶平成27年2月6日に完成した新たな分娩舎



▼新たな分娩舎前で笑顔の井田秀代さん(針ヶ谷)(井田さんのインタビュー記事は3ページ)



特集 農業王国ふかや 再生へ 平成26年2月の大雪から1年



▲被災後のハウス内部。ハウスの屋根が崩れて、ユリが押しつぶされていた

仲間がくれた復興の後押し
あの頃は、ユリが一番成長している時期。ユリと一緒に雪に埋もれたハウスを見た時の気持ちは、今でも言葉にできません。でも、うちは持ちこたえたハウスもあつたし、周りにはもっと大きい被害を受けた人もいる。何とか農業を続けられることに感謝して、前に進むことだけ考えました。けれど、倒壊したハウスを片付けようとした時、あまりにも被害

が大きく、しばらく手を付けられずにいました。しかし、雪害を知った新潟や高知のユリ農家のかたが駆け付けて、撤去作業を手伝ってくれたのです。仲間が来て後押ししてくれたからこそ、復興への第一歩を踏み出すことができた。本当にありがたかったですね。
『元通り』では足りない！
現在、再建できたハウスは約3分の1です。ハウスの数はまだまだ元通りではありませんが、ユリの栽培は以前より規模を拡大し、出荷量を上げていきたいと考えています。雪に耐えられるハウスを造るには、補助金のほかに自己資金を投入しなければならぬし、何より市場が深谷産のユリを必要としているから、『元通り』では足りないのです。市場の期待にこたえるためにも、これからも頑張らなくちゃと思っています。

インタビュー④ 島田勇樹さん(大谷)
続けられることに感謝
農業を続けられることに感謝して前進あるのみ



大雪の被害は決して『終わったこと』ではありません
引き続き復興に取り組みます

市はこれまで、各農業者団体と協力し、被害状況の把握に努め、倒壊したハウスや畜舎などの撤去や再建に必要な補助金の手続きを進めてきました。

1年が経ちましたが、被災した農業者を取り巻く状況はさまざまです。市内農業の再生への道のりは、これからも続きます。大雪の被害は決して『終わったこと』ではありません。引き続き、農業者の皆さんと一緒に、深谷の農業の復興に取り組みます。

私にもできる! 農業復興支援

ふかや・農業応援寄附金(ふるさと納税)

問い合わせ 財政課(☎574-6632)

降雪で被害を受けた農業者を支援するため、皆さんからの寄附を募集しています。お寄せいただいた寄附金は、被災した農業用施設の解体・再建費用などに充てられます。

ぜひ、『ふかや・農業応援寄附金』で、深谷市の農業の復興を応援してください。



寄附のお礼には

1万円以上の寄附をしていただいたかたのうち、希望されるかたには、深谷市の特産品(2千円相当、送料込み)をお送りします。

『ふかや・農業応援寄附金』は、ふるさと納税制度による深谷市への寄附金です。

インタビュー② 飯野篤己さん(黒田)
頑張っ、農業を続けよう
「待ってるよ」の声に背中を押されて、決めた



喪失感でいっぱい

昨年2月15日早朝、つぶれていくハウスを発見しました。(3ペーシ上段の写真が被災時の様子)
ハウスの中にはほんの数時間前まで、出荷直前のトマトがたわわに実っていました。全滅です。一週間へらへらは、つぶれたハウスを見るのが嫌でした。
ある程度の被害は覚悟していたものの、いよいよこれからのという時期に、まるで大切に育てた子どもを失ったかのような喪失感でいっぱいになりました。

『おいしい野菜、待ってるよ』

これまでも幾度となく自然災害に直面し、乗り越えてきましたが、今回は自分の年齢を考えると、農業を続けるかどうか、しばらく考えました。けれど、『おいしい野菜、待ってるよ』と言ってお客さんの声に背中を押され、もう少し頑張っ



▲倒壊したハウスの跡地に建設中のハウス。現在は、倒壊を免れたハウスでトマト栽培を続けています

て、農業を続けよう』と思っていました。今回の雪に関わらず、農業は自然を相手にしているから、毎年計画通りにいかないことばかり。こうしたトラブルや苦い経験を繰り返して、経験を積んでいくのが農業だし、そこが農業の大変さだけれど、楽しさというか、やりがいでもあるのかな。
これからは頑張ってお客さんに喜んでもらうものを作る、というお客さんへの責任感を胸に、農業を続けていこうと思います。

「待ってるよ」の声に背中を押されて、決めた

またゼロから始まるのか…

あの日、イチゴを栽培するハウスは倒壊し、収穫期のイチゴを一度全て失いました。



▲倒壊したハウスの内部。イチゴの棚がひっくり返って倒れていた

『またゼロから始まるのか』とがっかりしましたが、生活の糧を全て失い、収入が途絶えてしまいましたので、とにかく一刻も早く再開させなければという一念で、ハウスの再建に奔走しました。新たなハウスの発注前には、同じ被害を繰り返さないよう、積雪の多い山形県のハウスを見に行

インタビュー③ 飯島稔さん(黒田)
『通常ダイヤ』へ第一歩
「再開してくれて良かった」その言葉が支えに



き、雪に強いハウスの作り方を学んできました。

ようやくほっと息

昨年9月に、倒壊したハウスの跡に新たなハウスが完成し、イチゴ栽培を再開することができました。現在は、収穫、出荷が始まり、ようやくほっと息です。



▲新たなハウス内で出荷を待つイチゴ

しかし、1年経っても、電車の運行に例えるならば、まだ『通常ダイヤ』には戻っていない、そんな感じ。今が『通常ダイヤ』への第一歩。毎年来てくれるお客さんの「再開してくれて良かった」という声を支えに、これからも走り続けます。